

福岡市内で貴重資料を展示

創立百周年記念

九州大学 学術標本・貴重資料パネル展

— 総合研究博物館 学術標本コレクション —
— 附属図書館 貴重資料 —

平成23年5月7日(土)から30日(月)にかけて、福岡空港ビル国内線第3ターミナル1階ロビーにおいて、九州大学総合研究博物館と九州大学附属図書館合同でパネル展を行いました。

総合研究博物館からは、昆虫や骨格などの学術標本コレクションと、その標本写真を、附属図書館からは『蒙古襲来絵詞』『源氏物語歌絵』『今昔・福博絵図』などの貴重資料の紹介パネル等、合計約60点が展示され、空港利用者の注目を集めました。寄せられた



アンケートには、「九大を身近に感じることができた」「是非博物館に行つて本物を鑑賞したい」などの感想や、再開催を望む声も多く寄せられました。

創立百周年を記念して、広く皆様に九州大学を知っていただくため、平成23年5月、市内2箇所にて、附属図書館、総合研究博物館所蔵資料の展示を行いました。

「九州大学百年の宝物 — 附属図書館貴重資料コレクション」展

九州大学附属図書館では、平成23年5月10日(火)から16日(月)までの7日間、博多駅前の紀伊國屋書店福岡本店にて「九州大学百年の宝物—附属図書館貴重資料コレクション」展を開催しました。

同展では、九州大学の百年の歩みを反映した多様でユニークなコレクション100点を纏めた『九州大学百年の宝物』(九州大学百年の宝物刊行委員会編、丸善プラネット発行)の中から、附属図書館所蔵のコレクションを代表する資料、約30点を展示しました。中でも、挿絵の美しい「源氏物語歌絵」や、「今昔・福博絵図」、炭鉱関係資料など福岡の歴史を語る資料が注目を集めました。

普段非公開の貴重な資料が大学のキャンパスを飛び出し一堂に会するとうまたとない機会に、来場者も多く、時間をかけて熱心に鑑賞する姿が見られました。大学図書館の奥深さや古い貴重な資料が持つ力に圧倒されたとの感想も多く、多様かつ膨大なコレクションにより広く知ってもらおう、百周年にふさわしい展示会となりました。

